

澡豆壺

○按ズルニ、干荷葉ハ、荷葉ヲ乾カシタルモノナリ、是淨手等ニ用キル所ニシテ、即チ澡豆ヲ用
キル料ナラン、
〔延喜式二十一〕凡天皇即位則講說仁王般若經、一代一日朝晡二座講畢、宮中諸殿省寮等廳隨便莊
嚴設百高座、略其一堂設高座一具、請七僧、講師讀師咒願、散花維那、○中略、講師法服、略中澡豆壺一合、

澡豆篩

〔延喜式四十〕供御年料、中宮
絹小篩四口、各一尺五寸、牛乳
井御澡豆料、

洗粉

〔嬉遊笑覽三〕衣服の油を洗ふに、無患子皮と白小豆を粉にして、澡豆に用ふる故に、白小豆をシ
ヤボン豆とも呼ぶ、

〔諺話浮世風呂三編上〕春はあけぼの、やうく白くなりゆくあらひ粉に、ふるとしの顔をあらふ、

〔諺話浮世風呂前編上〕洗粉の袋はぶんくと匂ひて、下男の鼻をうがち、風呂の壁はとんとんと
拵たきて、湯汲の睡を寤さしむ、

〔人倫訓蒙圖彙四〕蘭麝粉。つやあらひ粉也、もろこしの李夫人つねにこれを用ひ給ふゆゑに、顔
のつやうつくしく、三千のちようあい一身にありといひしも、このつやあらひこのとくとかや、
當世都にもつはらはやり、男女ともに、いろつやよく、おぼへ侍り、

〔江家次第七〕解齋事、謂六月十二日十一月十一日後曉、

平旦主殿司自御湯殿方供御手水、中其南立白木二階机一脚、其層敷調布、其上居御巾、入黒又置
粉一坏、入小

漬粉

○按ズルニ、本文ノ粉ハ、手水ノ時ニ用キルモノナレバ、即チ澡豆ナラン、
〔兵範記〕久壽三年正月三日乙巳、早旦着束帶先參殿下、藤原御手水番人人七八許輩參會、皆衣冠
次殿下出御、有御手水事、其儀、中次高佐持參御手巾篋、御手巾布二切帖入之、其上居御陪膳傳取